

## 「心の復興のつどい」に出展します!

復興庁では、東日本大震災後の被災地における被災者の「心の復興」に向き合う事業の助成を行っています。助成事業の名前は「心の復興」事業。本会が今年度行っている「ふくしまオーガニックコットンプロジェクト」の中の「みんなの畑」に関わる夏祭りや収穫祭などの事業や、メモリアルライトアップ事業、手紡ぎ糸の製品づくりなどがこの事業の助成を受けて進められています。「心の復興」事業として被災各地で進められている取り組みを紹介すると共に、そうした取り組みの裾野を広げるためのイベントが下記の日程で企画されています。この中で、本会の取り組みについても報告させていただくと共に、コットンペイブ作りのワークショップやプロジェクトの製品などの販売もさせて頂くことになりました。南相馬市といわき市の2か所での開催となります。ぜひ、お近くでの開催に足を運んでみてください。

### 南相馬会場

日時:2月5日(火)~10日(日) 10:00-17:00 展示・販売  
9・10日 10:00-17:00 ワークショップ(糸紡ぎ・コットンペイブ作り)  
9日 13:00-15:30 心の復興事業・事例共有発表会  
会場:野馬追通り銘醸館二番蔵(南相馬市原町区本町)

### いわき会場

日時:2月19日(火)~24日(日) 10:00-17:00 展示販売  
(19日のみ13:00開始)  
23・24日 10:00-17:00 ワークショップ(糸紡ぎ・コットンペイブ作り)  
23日 13:00-15:30 心の復興事業・事例共有発表会  
会場:小名浜潮目交流館(いわき市小名浜)

## チャリティーショップネットワークフォーラムに参加してきました!

市民の皆様から寄付品の提供を受けて、それらの品々を販売することで事業収入を得、それを財源として社会的な活動を行う「チャリティーショップ」という活動形態があります。そうした活動に取り組む市民団体が全国組織として「日本チャリティーショップネットワーク(JCSN)」を結成し、連携して相互の活動を高め合おうとしています。ザ・ピープルもその立ち上げ時期から関わり、東京・神奈川・名古屋・大阪・高松と、全国各地の仲間たちとの協力体制を構築しようとしています。

昨年12月3日、ネットワーク主催のフォーラムが催され、本会からも3名が参加。他団体との交流や新しい取り組みの情報学習を行って来ました。その中では、チャリティーショップアワードの表彰も行われ、ザ・ピープルの各店の壁面に飾られているオーストラリア タウンズビルの女性達の手づくりアート作品が、特別賞「つながるアートで賞」を受賞しました。

## 柳生地区天空の里山に更に多くの賑わいが!

本会では、昨年1月から2年間に渡って、住友商事東日本再生フォローアップ・プログラム2017の助成を頂き、いわき市四倉町上柳生地区に都市農村交流拠点を整備する事業を進めています。昨年12月で1期目を終了し、事業としての折り返し地点に立ちましたが、この間にこの地区内には大きな成果が生まれています。

昨年7月に竣工したこの施設には、地域内外からコットン栽培のお手伝いのみならずたくさんの方々が足を運び、交流の拠点としての機能が高まっています。まず、コットン畑においでの方々は、これまでは直射日光や雨を避けようとするターフやビニルハウスの中での休憩にならざるを得なかったのですが、屋内でゆっくり休憩を取ることができるようになりました。また、この施設ができたことが呼び水になり、「畑の会」「織姫の会」といった以前からあった有機農業やコットンを生かした糸紡ぎのサークル活動にも新規の加入者が現れ、活動が活発化しています。そして、何より、この里山に集う企業や大学の方々が連携してこの地区の耕作放棄地を少しでも減らすために新しくプロジェクトを立ち上げようという流れまで生まれています。

助成事業の2年目では、まずは外壁1枚のこの建物の居住性をよくするために断熱材の入った内壁を設置するワークショップの開催を計画しています。

開催予定日は、2月23・24日。詳しくはワークショップの指導担当:島村守彦(いわきおてんとSUN企業組合再エネ事業部)携帯080-3332-3120までお問い合わせください。



▲柳生地区天空の里山での取組みの様子

 私たちの活動を会員として支えて下さい。  
会費納入をよろしくお願い致します。

会費:活動会費(実際に活動に参加される方と、会報購読という形で支援して下さる方) 2,000円/年

賛助会員(資金的な面から支えて下さる方と法人・団体会員) 10,000円/年

郵便振替(02110-0-21908)でお送り下さい。

### つばき

「おばさんきれいなね」と幼い女の子に呟かれたのは、昨年、富岡町でコットンペイブのワークショップを開催していた時のこと。「さあ一緒に作るうね」と言ったが、シートと一点を見つめて始まるうとしない。眼差しが私の胸元のネックレスに注がれていることが分かった。水色の大きめのビー玉を連ねただけの簡単な物だったが、彼女の目には輝いて見えたのだから。▼76歳の今日まで「きれい」という言葉は自分には当てはまらないと考え過ぎてきたが、そこで耳にした「おばさんきれいなね」の言葉。「エッ?何が?」と驚いたが、その瞬間幸せな気分になったのも事実▼若いころ美人に生んでくれなかった親を少し恨めしく思ったこともあったが、こればかりは何ともしがたい。職場での仕事が充実していた20代。同僚に容姿端麗な美人職員がいた。男性が何かに付け近づいてきた。私には簡単な挨拶はするが、目的は彼女。そんなある日、既婚の男性職員が私に向かってこう言った。「神は二物を与えずと良く言った物だ」と。普段から「人は顔じゃないわ、大切なのは心ですよ」と負け惜しみに自負していた私だったが、意味する所は理解できた。でも別に気にも止めず今日まで来てしまった。今になって思えば立派な、セクハラだったのだと思う▼今私には3人の孫がいる。自慢する訳ではないが、とにかく眩しいほどに美形なのだ。青春時代に叶えられなかった美への憧れが今になってこんな形で叶えられたのかも...と内心納得する私である。美人であつてもなくても自分らしく今いる場所で「桜梅桃梨」の人生を生き抜きたいと心底思う昨今である。